

【家庭科】

1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 調理や裁縫に意欲的に取り組む児童が多く、実習を通して楽しんで知識や技能を身に付けることができた。
- 保護者や清水窪応援隊の手伝いによって、困り感のある児童まで目がいきとどき、裁縫や調理の技能面の定着を図ることができた。
- △調理や裁縫の活動時間を十分に確保できても、時間に制限があるため、振り返りや学習を活かす時間が取りづらい。
- △児童によって家庭での生活経験に差があるため、自分の生活経験を振り返っても、課題や解決策を見つけづらい児童が多かった。

2 学習状況の分析と課題

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
調査結果の分析	衣食住や家族の生活に関する基礎的な事項について学んだ事柄は知識としては定着している。 一方、家庭での生活様式の違いや経験の有無により、生活技能の差は大きい。全く未経験の児童や始めから目的意識の薄い児童は、裁縫・調理共に基本的な道具の使い方の習得に時間がかかる。 第5学年：裁縫の玉止め・玉結びなど、裁縫の基本的な技能の習得に時間がかかる。調理では、基礎知識は定着しているものの、技能は十分ではない児童もいる。 第6学年：5年時に経験のある技能は再度学習することで定着している。しかし、それを自分で活用する力には個人差がある。	多くの児童は、便利なものに囲まれ、家族に家事等を任せることに慣れてしまっている生活環境にあり、経験が少ないため、自分の家庭生活に結び付けてよりよい生活を工夫する必要性を感じている児童は少ない。 教科書の事例を参考にしながら、課題解決に取り組む、その中で自分の生活でも活かせることがないか少しずつ考えられるようにはなっている。	調理ではグループペアで協力しながら主体的に取り組み、裁縫ではもくもくと製作活動に励んでいる。しかし、裁縫については、技能面での差が大きく、意欲があっても友達や教員の支援がなければ、実習が思うように進められない児童もいる。 自分の生活や衣食住に関しては、よりよくするための知識は習得できても、実生活に落とし込んで課題を解決したり実践したりしようとする意欲には個人差がある。実践をする機会があっても、継続的に行うことができず、その場限りの体験になっている児童が多い。
課題	・自分の家庭生活を振り返るだけでなく、友達の生活についても可能な限り知りながら、よりよい衣食住について考え、自らの生活をよりよいものにしてこうと関心を高めること。 ・実践の後の振り返りの時間を十分に確保すること。		

3 授業の具体的な改善策

教科目標	学習指導要領の教科の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 (3) 家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
全体	教科書の例のみで学ぶのではなく、家庭にも協力を仰いで、実際に自分自身や友達の生活を基にした事例を通して生活改善について考え、話し合いながら学べるようにすることで、より主体的で深い学びになるように工夫する。
学年段階別改善策	
第5学年	・課題解決に主体的に取り組めるよう、自分の生活を振り返るだけでなく、ペアやグループ活動によって友達の生活についても可能な限り知り、さまざまな家庭生活での課題解決について考えられるよう導入や授業の流れを工夫する。 ・実習では、グループやペアで協力しながら取り組ませることで、協働的に学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。 ・基本的な技能面や知識の定着を図るために、実習時間を十分に設け、動画や写真・絵などの視覚支援を用いながら、困り感のある児童へのきめ細やかな指導を工夫する。 ・小単元や単元の最後に、家庭生活で活かせられるよう振り返りの時間を十分に設ける。 ・清水窪応援隊や保護者への協力を仰いで調理実習や裁縫実習で、困り感のある児童にきめ細やかな支援ができるようにする。
第6学年	・来年度中学生になることや、大人に近付いていることを意識させ、自立への道筋という視点をもたせることで、主体的に自らの生活を改善していこうという意識を高めさせる。 ・実習では、グループやペアで協力しながら取り組ませることで、協働的に学ぶ工夫をし、主体的に課題に取り組み、協力して課題を解決する力を高められるようにする。 ・自分の家庭生活と結び付けて学習に取り組み、学習したことを家庭生活のどのような場面で生かせそうか考え実践することで、技能や知識の定着を図るとともに、生活改善への意欲・実践力が高まるようにする。 ・小単元や単元の最後に、家庭生活で活かせられるよう振り返りの時間を十分に設ける。 ・清水窪応援隊や保護者への協力で、調理実習や裁縫実習で、困り感のある児童にきめ細やかな支援ができるようにする。